

幸せの形

高崎市立佐野中学校

三年 富田 楓愛

あなたの幸せってなんですか。心から幸せだと思えた瞬間はありますか。

楽しい、嬉しい、悲しい、寂しい。こうした感情は多くの人が経験したことがあると思います。でも、私はある出来事が起きるまで、「心からの幸せ」について考えたことも、感じたこともありませんでした。

幸せと聞くと、結婚や受験の合格、試合の優勝などを思い浮かべるかもしれませんが、ですが、本当の幸せはもっと身近にあるのだと私は知りました。

それは小学校の頃の出来事です。母が精神的な病気になり、外にも出られず、会話も笑顔もなくなりました。今まで当たり前だった「いつてらっしゃい」の声や、帰ってきたときの会話、笑い声、そのすべてが一

瞬で消えました。まるで周りの明かりが消え、暗闇にひとり取り残されたような感覚でした。

その後、祖母の家で母と三人で暮らしました。祖母は毎日温かいご飯を用意し、優しく声をかけてくれました。母のことを支えながら、私のことも気にかけてくれていたのだと思います。

私にとって今までとは全く違う生活。現実を受け止められない心の葛藤と、現実を受け止めたくない心の喪失感、母の顔色を見ては誤魔化してばかりいました。毎日が怖くて怖くて仕方ありませんでした。目の前にいるのは本当に母なの？今ここにいる自分は本当の自分なの？ごめん、分からないや。どうしたらいい？どうすればいい？そんな思いが毎日巡っていました。

それから一年が経ち、母は少しずつ回復していききました。そしてある日、母が、「スーパーに行ってみよ。」と言いました。私たちには当たり前だったが母には大きな挑戦でした。ゆっくり歩き、商品を取り、レジに並び、車で帰る。

そのとき母は言いました。「外の空気を吸えること、

光を感じることに、歩けることってこんなに幸せなのだね。」と。

そこからは徐々にできることが増えていき、病気も治りました。母は何度もこう言います。「実は生かされていること自体、ただただそれだけで幸せなのだということが、それを教えてくれたつらく過酷だった経験に感謝をしなくてはいけない」と。

この出来事を通し、私は日常の何気ない瞬間こそが幸せなのだと気付きました。普段当たり前だと思っていた毎日が、実はかけがえのない大切な時間だったのです。

私たちは普段、その幸せに気付かないまま過ごしてしまうことがあります。失って初めてその大切さに気付くことも少なくありません。この瞬間にも、たくさんの幸せに囲まれています。

みなさんにもう一度聞きます。幸せだと思える瞬間はいつですか。友達にやさしくされた時ですか。家族と笑った時ですか。好きなものを食べた時ですか。それらの何気ない日常こそが「幸せの形」なのです。だか

ら、日々の一瞬一瞬をどうか大切にしてください。そして、生かされている命があるからこそ、幸せがあることを忘れないでください。

みなさんの中で、一人でも多くの人に今ある幸せの大切さが伝わり、自分の毎日を少しでも大切にしようと思ってもらえたらうれしいです。幸せは遠くにあるものではなく、特別なものでもありません。私たちのすぐそばにある小さな日常の中にあるのです。

最後に私の決意を。

「私は今この瞬間を大切に生きていきたい！」